



平成18年度

尾瀬山の鼻

ビジターセンター運営記録


尾瀬沼

(目次)

ビジターセンター位置図		巻末資料	
尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録		・グラフでみる10年間	... 20
	... 1	・ビジターセンターの利用動向	... 21
コラム「尾瀬ボランティア」	... 10	・ビジターセンター傷病者対応事例	... 22
尾瀬沼ビジターセンター運営記録	... 11	・尾瀬のできごとをふりかえる	... 23
コラム「尾瀬自然解説ガイド」	... 18	コラム「職員の解説活動雑感」	... 25
コラム「一般の方から寄せられた声」	... 19	今年の尾瀬のトピックス	... 26
		尾瀬保護財団の沿革と概要	... 27
		ビジターセンターの自然体験プログラム	


財団法人 尾瀬保護財団

ビジターセンター位置図




尾瀬山の鼻ビジターセンター

〒378-0411 群馬県利根郡片品村
大字戸倉字中原山898-9



尾瀬沼ビジターセンター

〒967-0532 福島県南会津郡檜枝岐村字燧ヶ岳1番地



ビジターセンターまでの交通案内

尾瀬は山ですので、登山の装備でお出ください。

尾瀬山の鼻ビジターセンターまでは・・・

- ・群馬県片品村の鳩待峠から徒歩で約60分。
- ・鳩待峠まではふもとの戸倉から
関越交通バス、尾瀬エトワンスファースで約25分。

尾瀬沼ビジターセンターまでは・・・

- ・福島県檜枝岐村の沼山峠から徒歩で約60分。
- ・沼山峠まではふもとの御池から
会津乗合自動車バスで約20分。



(表紙の写真：オコジョ)

平成18年度 尾瀬山の鼻ビジターセンター運営記録

ビジターセンター管理運営

群馬県が設置した尾瀬山の鼻ビジターセンターの管理運営を平成8年度から実施しています。

1 運営期間

- (1) 職員駐在 平成18年 5月12日 ~ 平成18年11月14日 (187日間)
- (2) 開所期間 平成18年 5月14日 ~ 平成18年10月28日 (168日間)
- (3) 休館日 なし

2 取扱時間

- (1) 施設開館 8:00~19:00(平日) 7:00~19:00(土日祝日)
 - (2) 窓口案内 8:00~16:30(平日) 7:30~17:00(土日祝日)
- 開館時間は、入山者の状況に応じて弾力的に運用しています。

3 入館者数

89,205人(平成17年度は、101,150人、前年度比 88.2%)
(参考 巻末資料1「グラフで見る10年間」もあわせてご覧ください。)

4 職員構成(写真1)

- (1) 人数10人
- (2) 構成

職	氏名	主な分掌業務
所長	笹原宗利	全体総括
主任	西嶋弘満	管理運営、自然解説(駐在期間8月から11月)
技師	会田綾子	管理運営、自然解説(駐在期間5月から8月)
管理員	大林千恵	自然解説、情報収集展示、窓口対応、特殊植物保全
管理員	青柳真理	自然解説、情報収集展示、窓口対応、特殊植物保全
管理員	牛田賢二	自然解説、巡回指導、施設管理、窓口対応
管理員	小山抄子	自然解説、情報収集展示、窓口対応、施設管理
管理員	真田佳代子	自然解説、情報収集展示、窓口対応、販売品管理
管理員	関口 梓	自然解説、情報収集展示、窓口対応、巡回指導
管理員	西口俊一	自然解説、巡回指導、施設管理、窓口対応

自然解説事業

尾瀬を訪れる利用者に、自然との触れあいを通じて尾瀬にふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の大切さを意識してもらうことを目的として、ビジターセンター内の展示室及びレクチャールーム、野外掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 平成18年度 自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライドショー	ハイビジョン	団体レクチャー
参加者数(人)	636(81%)	1,461(86%)	257(137%)*	508(72%)
実施回数(回)	99(108)	60(59)	28(14)	18(22)

(表中カッコは、%が前年度比、数値が前年度実績回数を示しています。)

* ハイビジョンは8月から上映

1 自然観察会(写真 2)

週末や繁忙時期(ミズバショウ期、ニッコウキスゲ期、紅葉期)を中心に、山ノ鼻研究見本園を会場として実施しました。

- (1) 実施場所 山ノ鼻研究見本園
- (2) 実施時間 朝：午前7時から40分間 昼：午後2時から40分間
- (3) 担当者 山の鼻ビジターセンター職員

2 スライドショー

自然観察会と同様の期間で開催しました。主に山小屋宿泊者を対象とし、山の鼻ビジターセンターで保管するスライドを用い、季節毎に組み替えることで担当者の解説と合わせて鑑賞してもらいました。

- (1) 実施場所 尾瀬山の鼻ビジターセンター内のレクチャールーム
- (2) 実施時間 午後7時～約40分間(秋期は、午後6:30からに繰り上げ)
- (3) 担当者 自然観察会と同様

3 ハイビジョン上映

ビジターセンター所有の映像ソフト「待ち伏せ」「トンボ」「クモ」を使い、繁忙期に1日2～3回にわたり定時上映を行いました。その他、利用者からのリクエストにより尾瀬関連の映像ビデオの放映も随時実施しました。

4 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校関係者や尾瀬を勉強している社会人グループに対して、スライドレクチャーや自然観察会を開催し、自然への理解を深めていただきました。

5 館内解説(写真 3)

不定期で館内展示物の利用方法を含めた解説を職員により実施しました。

6 展示

(1) 常設展示

情報展示システムの導入(タッチパネル方式による尾瀬情報の検索)
植物の開花や鳥などの観察ポイント、登山道の危険箇所などの情報提供
気象情報(館内や正面掲示板に表示)

デジタルカメラ画像による代表的な植物や、各地の様子を展示

時節ごとの観察ポイントを紹介した写真やイラスト

尾瀬に生息する動物の剥製、毛皮、骨の展示(鹿、タヌキ、キツネ、テン等)

バス、電車などの公共交通機関の情報や相談受付

ビジターセンター協力者から提供された写真や絵画、図書等の展示

- 旧木道、留め金（使用済み現物）などの展示
- 蛇紋岩の展示
- オコジョコーナー（写真、目撃情報の展示）
- ハイカースギャラリーコーナー（投句など作品の展示）
- 団体レクチャー時に作成した尾瀬に関する絵等の展示

(2) 企画展示

企画展示は行わず、リニューアルした展示室の充実に努めました。

7 季刊誌の発行

季刊誌「原をわたる風だより」は事務局情報誌「尾瀬通信」に統合し、新たに発刊し配付しました。

- (1) 発行日 6月（創刊準備号） 8月（第1号） 10月（第2号）
- (2) 発行数 初版2,200部 1・2号2,000部を発行

8 自然情報の収集・提供（写真 4）

利用者への情報提供や解説資料充実のため、職員が毎週計画的に尾瀬ヶ原、至仏山及びアヤマ平の自然状況を調査しました。その状況は自然情報として尾瀬内の各山小屋、財団ホームページ、関係機関へ提供しました。

群馬県所管施設等の維持管理

尾瀬保護財団では、群馬県が整備した尾瀬地区公衆トイレ等の維持管理業務を実施しています。設置は山の鼻地区にある山の鼻公衆トイレ及び、竜宮地区の竜宮公衆トイレの2施設で、管理の歴史は平成8年度から尾瀬山の鼻ビジターセンター、山の鼻公衆トイレ、竜宮公衆トイレの3箇所を管理開始し、平成12年には尾瀬利用者数の計測を行う入山者カウントセンサー（環境省所管）の管理が加わり現在に至っています。

平成8～11年度	平成12～18年度
尾瀬山の鼻ビジターセンター 山の鼻公衆トイレ 竜宮公衆トイレ 木道（群馬県所管）	尾瀬山の鼻ビジターセンター 山の鼻公衆トイレ 竜宮公衆トイレ 入山者カウントセンサー（環境省所管） 木道（群馬県所管）

1 山の鼻公衆トイレ

山の鼻公衆トイレ及び、合併浄化槽の管理状況は以下のとおりです。

(1) 供用期間

平成18年4月28日～平成18年11月13日（200日間）

(2) 利用者数

	243,554人	（男性120,896人	女性122,658人）
（参考）平成17年度	248,232人	（男性122,838人	女性125,394人）
平成16年度	231,020人	（男性114,450人	女性116,570人）
平成15年度	270,131人	（男性126,391人	女性143,740人）

(3)維持管理の実際

清掃

1日1回の定時清掃のほか、随時点検を実施し、きめ細かな清掃を行うことで快適な利用環境に配慮しました。また、施設周辺の美化巡回も含めてゴミのない公衆トイレをめざしました。

点検

数回のペーパー補給や巡回を行い、快適な環境を維持しました。

合併処理浄化槽の維持

専門業者による定期的な保守・点検作業のほか、絶えず異臭や通常の有無を把握するように努めました。

2 竜宮公衆トイレ

竜宮公衆トイレ及び、合併処理浄化槽の維持管理業務を専門業者により実施しました。ビジターセンター職員は、週2回にわたり清掃やその他管理状況の点検を行い、予め決められたゴミ処理方針に基づき、公衆トイレで発生したゴミを域外搬出するためすべて回収しました。

アヤメ平(横田代)等の植生復元事業の実施(写真 5)

平成17年度、アヤメ平(横田代)荒廢地にミタケスゲ等播種し緑化ネット、筵等で流失防止保護した結果、今期かなり緑化が見られましたが、所により無植地が見られたので再度播種(流失防止に緑化ネット使用)するとともに、山の鼻ビジターセンター裏側で育苗した苗を植えつける工法で試験実施し、今後は経過観察を続けます。

1 横田代植生復元作業

(1) 実施場所 アヤメ平(横田代)標高約1880m付近

<所在地 片品村大字戸倉字中原山898-10>

(2) 作業方法 播種作業

方法: 無植地を整地し、採取した種子を全面に播種する。

播種した上に緑化ネットで覆い種子流失を防止する。

播種面積: 88.80m²内

種類と播種量: ミタケスゲ・ホロムイスゲ 計404g

19年度用苗床実施(山の鼻ビジターセンター裏)

・ミタケスゲ 12g ホロムイスゲ 18g

2 至仏山植生復元事業の各種取り組み

至仏山保全緊急対策会議により今後の至仏山保全対策の取り組み(植生の保護・復元方法等)を検討中のため事業は行いませんでした。

平成15年度の至仏山東面登山道植生回復作業跡地の状況確認を実施しました。

3 至仏山植生復元地経過観察

これまで実施してきた箇所の観察では、残雪からの流水や、雨水による流水が施工

地の苗に悪い影響を与える事が確認されています。そのため、植生復元地保護のため人工的な排水処理を行った後にポット苗を移植した実験地については、確実に活着、成長しています。今後も経過観察を実施していきます。

巡回活動の実施（写真 6）

1 概要

職員で以下の業務を実施しました。

- ・残雪期危険箇所（木道付近）の除雪
- ・歩道施設の点検及び簡易な補修（木道のゆるみ、立入防護柵及び転倒防止のための応急処置）
- ・利用者への案内・自然解説、効率的な利用方法の啓蒙
- ・巡回中の美化清掃
- ・自然情報の収集と写真撮影及びビジターセンターへの掲示
- ・植生作業実施後の生育状況調査、経過観察

なお、巡回中に確認された危険箇所については、必要に応じて補修または改修を随時行いました。

2 巡回方面と回数

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| ・竜宮方面 | 週 2 回 | ・至仏山方面 | 月 3 回程度 |
| ・見晴方面 | 週 1 回 | ・アヤマ平方面 | 月 3 回程度 |
| ・赤田代方面 | 週 1 回程度 | ・長沢、見晴方面 | 月 2 回程度 |
| ・三条の滝方面 | 月 2 回程度 | | |

その他

1 収入金の管理

協力金、募金、公衆トイレチップ、物品販売等による収入金を集計・管理しました。

2 開所式の実施（写真 7）

本年度の尾瀬山の鼻ビジターセンター開所式を、平成18年5月14日に、財団関係者や山小屋関係者、登山者の参加により開催しました。今年は群馬交響楽団のフルート奏者（パウエル氏）にレクチャー室で演奏していただき盛大なオープニングセレモニーとなり、この行事後から展示室等を解放しての業務を開始しました。

3 尾瀬ボランティアの活動支援

入山口啓発活動やお話ボランティア（定点解説等）のコーディネートなど、現地窓口としてボランティア活動を支援しました。その他、至仏山登山道の防護柵設置及び撤去作業、湿原荒廃地植生復元作業等についても参加してもらいました。

4 傷病事故の対応（写真 8）

本年度、尾瀬山の鼻ビジターセンターで扱った傷病事故件数は71件（17年度は49件）ありました。ビジターセンター窓口での軽微な手当や、山の鼻地区とし

での担架搬送への協力要請に対する職員の派遣を含みます。(詳細は22頁参照)
今年度(9月中旬)よりAED(体外式自動除細動器)をビジターセンターに設置しました。

5 ツキノワグマ情報収集及びクマ追跡調査について(写真 9)

春先(5~6月)と8月頃にツキノワグマが尾瀬ヶ原に出没し多数の目撃情報が山の鼻ビジターセンター(131件)に寄せられました。尾瀬沼ビジターセンター、事務局等へ寄せられた情報と合計すると159件(17年度 59件)です。

財団ではクマの専門家を現地に派遣(駐在)し監視、捕獲放獣、追跡調査等対応実施しました。

6 ゴミの計量及び域外搬出について

群馬県のゴミ処理方針に基き、県有施設から発生するゴミは尾瀬地域内で一切燃やさず、域外搬出して処理することを徹底しました。なお、平成18年度の総搬出量は778kgで、昨年度排出量(882kg)前年度比88.2%(104kg減)でした。

7 定時気象観測

5月下旬~11月上旬までの毎日、9:00と15:00に行いました。

8 植生回復作業等

ボランティアの皆様にご協力をお願いしました。

尾瀬ボランティア

尾瀬ボランティア16名の協力により苗の運搬(9/13 14名)及び横田代の無植生地に(88.80㎡)にミタケスゲ、ホロムイスゲ等(404g)を播種(9/21 2名)し、その上に植生マット等で覆い籐止め、整地作業をしていただきました。



(写真 1)

職員構成

今シーズンのスタッフは女性も多く、華やかな中にも、活発な活動を行いました。



(写真 2)

自然観察会

山ノ鼻研究見本園で一般の方の参加を呼びかけて実施しました。



(写真 3)

館内解説

ビジターセンター職員による館内展示物の解説、案内を実施しました。特に動物の毛皮や各種木片に人気がありました。



(写真 4)

自然情報収集

自然状況調査を定期的を実施し
情報提供を関係機関に提供しました。



(写真 5)

植生復元

アヤマ平(横田代)で植生復元
作業を実施しました。

- ・ 苗の植え付け
- ・ 種子の播種



(写真 6)

簡易的な木道補修

木道破損箇所補修や残雪期には
危険箇所の掘り出し作業等を行いました。



(写真 7)

開所式

5月14日に山の鼻ビジターセンター開所式を山小屋関係者、ハイカーの方々に参加していただき行いました。



(写真 8)

傷病者対応

簡易的な手当で、重病者は防災ヘリコプターまたは担架搬送。



(写真 9)

ツキノワグマ情報収集

ツキノワグマの調査をはじめ研究見本園等にクマが出没した際には、追い払いや監視等を実施しました。

コラム 尾瀬ボランティア

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー 1 ～

全国から集まるボランティア

尾瀬ボランティアは主に利用者に対する自然保護思想の普及啓発、美化清掃を行うために（財）尾瀬保護財団が募集を行い、平成8年6月から組織されています。呼びかけの結果、北は岩手県から南は宮崎県と全国から360人が登録され活動しています。

多くの活動形態

尾瀬ボランティア活動には大きく分けてプロテクターの活動と、インタプリターの活動があります。それぞれの主な活動メニューは次のとおりです。

(プロテクターの活動)	その他
入山口(鳩待峠、沼山峠、大清水)での啓発活動	(インタプリターの活動)
入山口周辺や尾瀬ヶ原、尾瀬沼周辺での美化巡回	お話しボランティア活動(定点解説)
横田代地区荒廃地の植生復元作業	各種調査、資料収集、その他
至仏山東面登山道整備	

現在の登録状況

367人(平成19年1月31日現在)

内訳：21都道府県(群馬県99人、埼玉県64人、東京都52人、神奈川県40人他)

平均年齢 61.5歳(最年長80歳、最年少31歳)

各年度ごとの取り組み

(括弧内は参加のべ人数)

	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
登録者数	582人	508人	558人	574人	500人	511人	514人	373人	384人
(内容現在日)	(9.2.23)	(10.2.16)	(11.2.26)	(11.12.31)	(13.2.1)	(14.1.11)	(15.1.21)	(16.1.21)	(17.1.20)
入山口啓発活動	44日(524)	30日(625)	36日(635)	36日(538)	32日(508)	34日(371)	33日(312)	29日(311)	33日(294)
スポット解説			3日(24)	10日(83)	15日(112)	15日(99)	16日(85)	15日(88)	19日(75)
移入植物除去			2日(31)	2日(29)	2日(29)	2日(14)	2日(9)	2日(11)	
至仏山植生復元*11				22人	11人	16人	9人	13人	13人
その他	*1	*2	*3、4	*5、6	*7、8	*9			*10、11

	17年度	18年度	
登録者数	360人 (18.1.1)	367人 (19.1.31)	*1 尾瀬クリーン大作戦(以後「ありがとう尾瀬清掃活動」として継続)
入山口啓発活動	27日(291)	27日(249)	*2 鳩待峠路上駐車防止(現在、休止)
スポット解説	19日(73)	19日(63)	*3 至仏山登山道整備(以後、継続)
移入植物除去			*4 沼山峠に「尾瀬ボランティア活動詰所」設置
横田代植生復元	12人	16人	*5 啓発活動従事者講習会
その他			*6 ボランティア帽子配付
			*7 県道沼田・檜枝岐線の植生回復作業(現在、休止)
			*8 お話しボランティア用の旗作成
			*9 鳩待峠に「ボランティアハウス」設置
			*10 各入山口ボランティアハウスに活動用の腕章を配備
			*11 16年度から植生復元作業を横田代地区で実施(以後、継続)

平成18年度 尾瀬沼ビジターセンター運営記録

ビジターセンター管理運営

平成8年度から環境省が設置した尾瀬沼ビジターセンターの管理運営を実施しています。

1 運営期間

- (1) 職員駐在 平成18年 5月11日 ~ 平成18年10月31日 (174日間)
- (2) 開所期間 平成18年 5月13日 ~ 平成18年10月28日 (169日間)
- (3) 休館日 なし

2 取扱時間

- (1) 施設開館 7:00 ~ 16:30
- (2) 窓口案内 7:00 ~ 16:30

3 入館者数 80,296人 (平成17年度 77,311人、前年度比 103.9%)

(参考 巻末資料1「グラフでみる10年間」もあわせてご覧ください。)

4 職員構成 (写真1)

- (1) 人数 5人

(2) 構成

職	氏名	主な分掌業務
技師	桜澤 仁	管理運営、情報収集展示、自然解説、窓口対応
管理員	山下さゆり	窓口対応、情報収集展示、自然解説
管理員	大川依里奈	窓口対応、情報収集展示、自然解説
管理員	中川 昌一	窓口対応、情報収集展示、自然解説
管理員	佐々木奈美	窓口対応、情報収集展示、自然解説

(3) アルバイト (サブレンジャー) 雇用

延べ 34人 (内訳: 夏期のみ)

自然解説事業

利用者に尾瀬のふさわしい利用方法を啓発するとともに、豊かな自然の一端に触れ、自然の大切さを認識してもらうことを目的として、展示室及びレクチャールーム、掲示板等を利用し、入山者に対する自然解説及び利用案内を実施しました。

表 平成18年度 尾瀬沼ビジターセンター自然解説活動のまとめ

区分	自然観察会	スライドショー	マルチスライド	団体レクチャー
参加者数(人)	843(88%)	2,489(83%)	8,734(101%)	754(63%)
実施回数(回)	106*(123)	88(91)		11(15)

*このほか中止59回。 表中カッコ内は、%が前年度比、数値が前年度実施回数を示しています。

1 自然観察会（写真 2）

週末や繁忙期を中心に、朝夕の 2回、ビジターセンター周辺を案内する自然観察会を実施しました。

- (1) 実施場所 大江湿原周辺
- (2) 実施時間 朝：7:00～7:40 夕：16:00～16:40
- (3) 担当者 職員、サブレンジャー、尾瀬パークボランティア

2 スライドショー（写真 3）

自然観察会と同様の日程で、主に山小屋宿泊者を対象に、その日の担当者が自然や尾瀬に関するテーマでプログラムを提供しました。

- (1) 実施場所 尾瀬沼ビジターセンター・レクチャールーム
- (2) 実施時間 19:00～19:40
- (3) 担当者 自然観察会と同様

3 マルチスライド「尾瀬沼の四季」上映

四季の様子を12分間で紹介するビデオを、1日 9回、定時上映（見学者なしの場合は中止）したほか、依頼による臨時上映も行いました。

4 団体レクチャー

事前に依頼を受けた学校団体や社会教育グループに対して、自然観察会やスライドレクチャーを実施しました。今年度は11団体について対応しました。また、15年度から旅行業者や企業などからも事前予約があった場合に限り、レクチャーを実施しており、今年度は3件実施しました。

5 展 示（写真 4）

既設の展示に加え、次のような情報の掲示を行いました。

各コースの植物の開花状況や鳥の観察ポイントなどの自然情報

（各方面巡回実施の度に更新）

季節の話題パネル（ワタスゲの花、尾瀬に咲くアヤメのなかま、ウメバチソウの花（構造）、尾瀬沼の水鳥など）

登山道の危険箇所、自然災害の発生状況

（各方面巡回実施の度に更新、台風等悪天時は随時更新）

ツキノワグマの目撃情報（情報が入り次第、随時追加・更新）

オコジョの出現地点（情報が入り次第、随時追加）

気象情報（毎日更新）

バス・電車など交通機関の時刻表および運休等の情報、車道通行止情報など（季節による変更等あれば随時更新）

6 季刊誌「尾瀬沼だより」の発行

季刊誌「尾瀬沼だより」は尾瀬通信に統合し、新たに発刊し配布しました。

- (1) 発行日 6月（創刊準備号） 8月（第1号） 10月（第2号）
- (2) 発行部数 初版2,200部 1・2号2,000部を事務局で発行

7 定点撮影

尾瀬沼周辺の景観の移り変わりをとらえ、解説資料とするため、平成 9年度から毎週火曜日（天候により変更あり）に定点撮影を行っています。

撮影対象 燧ヶ岳、大江湿原全体、燧ヶ岳と大江湿原、ミズバショウ群落、ニッコウキスゲ群落（ミズバショウ、ニッコウキスゲについては開花期間中）

8 自然情報の収集・提供

利用者への情報提供や解説資料の充実のため、職員やサプレんジャーが必要に応じて周辺各方面の自然情報収集を行いました。巡回で得た自然情報は整理の上、尾瀬沼・見晴・温泉小屋地区の各山小屋へ直接配付したほか、財団事務局を經由し、関係機関や全国の登山用品店へも発信しました。また、財団のホームページの更新にも利用されました（主な巡回地域は - 2 参照）。

環境省所管施設の維持管理

平成 8年度から、環境省が整備した尾瀬沼地区の各施設の維持管理を実施しています。維持管理を行っている施設は、次のとおりです。

平成8-9年度	平成10-11年度	平成12年度	平成13-16年度	平成17-18年度
尾瀬沼ビジターセンター 尾瀬沼第1公衆トイレ(清掃のみ)	尾瀬沼ビジターセンター 尾瀬沼第1公衆トイレ(清掃のみ) 尾瀬沼第2公衆トイレ(清掃のみ) 尾瀬沼排水施設及び流量計	尾瀬沼ビジターセンター 尾瀬沼第1.2公衆トイレ(浄化槽含む) 尾瀬沼排水施設及び流量計 尾瀬沼給水施設 入山者カウントセンサー	尾瀬沼ビジターセンター 尾瀬沼第1・2公衆トイレ(浄化槽含む) 尾瀬沼排水施設及び流量計 尾瀬沼給水施設 尾瀬沼汚泥処理施設 入山者カウントセンサー 見晴地区公衆トイレ(浄化槽含む)	尾瀬沼ビジターセンター 尾瀬沼第1・2公衆トイレ 入山者カウントセンサー * 平成13-16年度に記載 の他施設は、環境省から 業者への直接発注に切替 えとなった。

1 尾瀬沼第1・第2公衆トイレ（写真 4）

(1) 概要

環境省が尾瀬沼地区に設置した尾瀬沼第1および第2公衆トイレについて、毎日の清掃を実施しました。

(2) 業務内容

便器・施設の清掃、水洗動作点検、トイレトペーパーの補充

2 入山者数カウントセンサー

(1) 概要

平成元年度に環境省が設置した尾瀬各地の入山者数カウントセンサーの管理を、平成12年度から実施しています。

(2) 業務内容

入山者数カウントセンサーの設置・撤去

大江湿原（1セット） 御池（1セット） 三平下（1セット） 鳩待峠（3

セット) 山の鼻(2セット)の設置および撤去を行いました。
入山者数の記録・集計

巡回活動の実施

1 概要

木道や登山道の安全確保、自然情報収集、利用者への案内・解説・指導・美化清掃等を目的に、職員、サブレンジャーで分担し実施しました。

2 巡回の方面と頻度

- 大江湿原～沼山峠 : 週1から2回実施
- 尾瀬沼一周 : 週1から2回実施
- 小淵沢田代 : 2週に1回実施
- 一ノ瀬～大清水 : 週1回実施
- 大清水平 : 週1回実施
- 燧ヶ岳登山道 : 2週に1回実施
(長英新道往復, 長英新道～御池新道, 長英新道～見晴新道,
長英新道～ナデッ窪, 長英新道～温泉小屋新道)
- 見晴～温泉小屋 : 週1回実施
- 燧裏林道～段吉新道 : 2週に1回実施
- その他 : 必要と判断した地域について、随時実施
(皿伏山～富士見方面, 燧裏林道～三条の滝, 沼山峠～七入,
小淵沢田代～大清水 など)

その他

1 植生復元作業(写真5)

- (1) 実施場所 沼尻湿原 (ナデッ窪道入口)
小淵沢田代
- (2) 実施手順 採取(ミヤマイヌノハナヒゲ、ヌマガヤ、ミカヅキグサ)
種籾
播種
敷き草
イボミズゴケを敷く
- (3) 実施方法 荒廃区に対し均等に播種するとともに土砂流出防止用の緑化ネットを上部に敷設しました。また、ヨシの茎をネットの周囲に差込固定し、保湿剤として、イボミズゴケを移植しました。

2 保護柵の設置

- (1) 概要 湿原への立入りを防止する目的で、要所にロープ柵を設置しています。
- (2) 実施場所 大江湿原、沼尻、白砂湿原の休憩場所の周囲および木道の要所。
- (3) 実施方法 既設の杭の間にロープを張りました。

- 3 尾瀬ボランティア活動支援
入山口啓発活動やお話ボランティア等のコーディネート及び現地での窓口としてボランティア活動を支援しました。
(コラム「尾瀬ボランティア」P.10 も併せてご覧ください。)
- 4 サブレンジャーの配置
尾瀬沼の業務に就くサブレンジャーに対して現地で研修を行い、自然解説の手法を指導しました。
- 5 傷病事故の対応(写真 6)
尾瀬沼ビジターセンターで扱った傷病事故の件数は次のとおりです。
傷病対応 計9件(軽傷への簡易な対応も含む)
内訳/ヘリ要請 3件 担架搬送なし
(巻末資料3「傷病者対応事例」P.22 も併せてご覧ください。)
- 6 ツキノワグマの情報収集
平成12年度から尾瀬地区内で目撃されたツキノワグマの目撃情報を収集し、目撃マップを作成するなどして、関係機関や利用者への情報提供を行っています。
今年度は、山の鼻ビジターセンターからの情報をあわせ159件の目撃情報を収集し、適宜、センターおよび必要箇所に注意を呼びかける掲示を行うとともに、目撃情報をマップ化し、センターに掲示しました。
このほか、クマ専門の研究者(財団に昨年度から配置)と連携を図り、クマの痕跡調査、ヨシ刈り等の遭遇回避対策の実施にも関わりました。
- 7 尾瀬パークボランティアの活動支援
環境省所管の尾瀬パークボランティアの自然解説・スライドショーなどの活動に対する支援などを行いました。
- 8 生活ゴミの計量及び域外搬出
センターで排出したゴミの分別を徹底し、計量後毎週月曜日に人力で域外搬出しました。ゴミは、可燃物(生ゴミは乾燥処理)、不燃物、アルミ缶、スチール缶、ビン、その他の色着きビン、ペットボトル、段ボール、新聞紙などに分別しました。なお、平成18年度の総搬出量は508kg(昨年度は531kg)でした。



(写真 1)

職員構成

技師、管理員の5人体制で運営を行いました。



(写真 2)

自然観察会

朝夕にビジターセンター周辺及び大江湿原などで40分程度の解説を行いました。



(写真 3)

スライドショー

山小屋の宿泊者を対象に、夜7時から約40分程度のスライド解説を行いました。



(写真 4)

公衆トイレ清掃

快適に使用していただくために、きめ細かい清掃作業に努めていました。



(写真 5)

植生復元作業

沼尻地区及び、小淵沢田代の2箇所で作業を実施しました。



(写真 6)

傷病者対応

9件のうち、3件をヘリ搬送で対応しました。担架搬送はありませんでした。

コラム 尾瀬自然解説ガイド

～ ビジターセンター運営充実を目指すパートナー 2 ～

尾瀬自然解説ガイドとは ～自然に親しむお手伝い～

主に滞在時間の短い入山者を対象にした自然解説のためのガイドです。自然に親しむとともに、マナーの向上を図り、尾瀬の適正な利用を推進することが目的です。参加料は1人当たり500円～1,500円で、保険料や緊急時の無線機購入などの事務費に充てています。ガイド本人には、鳩待峠・御池～現地までのバス代などの一部を補う程度で、給与や報酬は支給していません。

なお、尾瀬自然解説ガイドの催行はビジターセンターが起点、終点になっています。

活動の意義 ～尾瀬を深く理解してもらうために～

尾瀬サミット2002で、尾瀬におけるガイドの役割とガイド資格の課題が議論されたことをきっかけに、財団のガイド事業への取り組みが始まりました。財団では、尾瀬に対する理解を深めてもらうためには、尾瀬の自然の素晴らしさを実感してもらうことに加え、尾瀬の自然保護に対しても十分理解してもらうことが必要だと考えています。ガイドは、尾瀬の魅力や大切さを掘り下げて利用者に伝えることのできる担い手です。尾瀬自然解説ガイドの利用を通じて、多くの利用者に貴重な尾瀬の自然を体感してもらえよう、活動を続けています。

活動の実績

年度	合計利用者数(人)	尾瀬ヶ原ガイド利用者数(人)	尾瀬沼ガイド利用者数(人)
16	162	160	2
17	127	115	12
18	240	190	50

信頼される自然解説ガイドを目指して ～質の高いガイドの人材を確保～

ガイド事業の成否を決めるのは、ガイドの質そのものです。尾瀬自然解説ガイドでは、IP(インタープリテーション)研修を受講済みの尾瀬ボランティアの方を対象に、導入研修を実施し、レポートの提出・現地研修をもって、ガイド登録を行っています。現在22名のガイドが登録されています。

また、催行中の事故等にも対応できるよう、2年おきに救急救命講習の受講を義務づけたり、既登録者対象の技術研修を実施するなど、ガイドレベルの維持向上に努めています。

ビジターセンターとの連携～利用者の安全のために～

尾瀬自然解説ガイドは無線機を持ち歩き、ビジターセンターと連絡を取り合っています。それは、ビジターセンターにガイド状況を適切に伝えることにより、ガイド利用者の安全を確保していくためです。尾瀬はラムサール条約湿地に登録されたことにより、さらなる注目を集めています。安心して安全な尾瀬利用を確保するため、安全確保に対するガイドの質も重要になっていくことでしょう。

～ 尾瀬自然解説ガイドのみなさま、これからも職員とともに切磋琢磨してゆきましょう ～

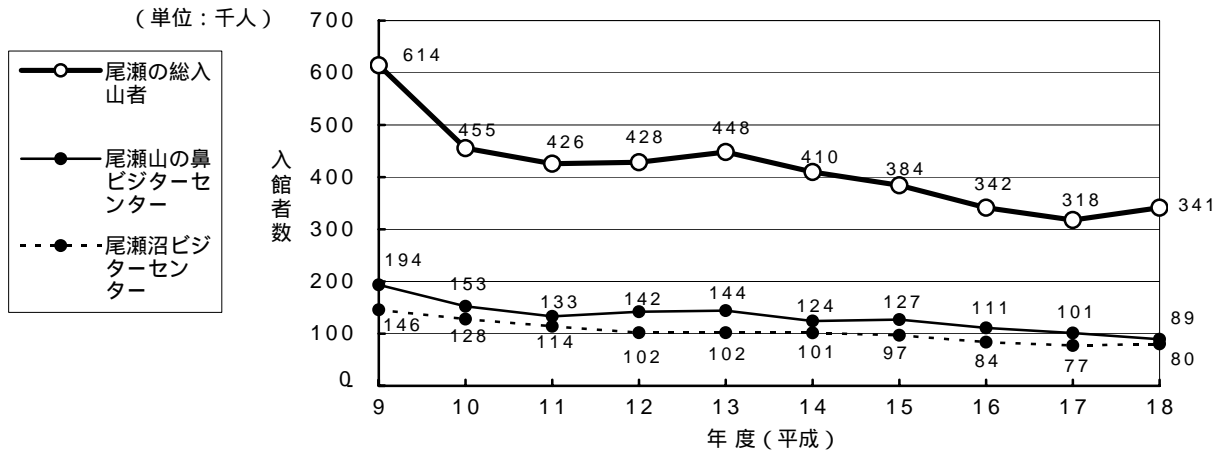
コラム 一般の方から寄せられた声

～ ビジターセンターに寄せられた声から ～

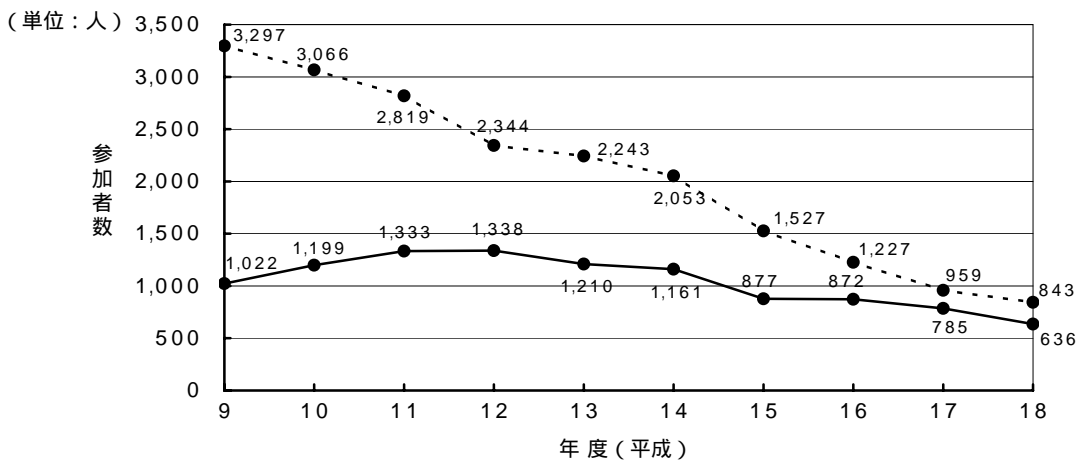
- ・初めて尾瀬に来てビックリした、景色の美しさ、鳥の声、ミズバショウの花、きれいで、機会があれば、また来たい。
- ・以前より尾瀬に一度来たいと思っていました。念願かなって来ることができました。とても美しい所ですね、いつまでも、この自然を残したいですね。
- ・初めて尾瀬（鳩待峠 見晴）を訪れ、尾瀬の大ファンになりました。今回は父と来ましたが、次回は友人達を誘って来たいと思います。長蔵小屋の三代に興味を持ちました。今度本を読んでみるつもり。この素晴らしい環境を守って残したい。
- ・雨の中、木道を歩き滑って手を打撲した。雨に来たこちらが悪いと思いますがどんなに気をつけても何回も滑り危険です。特に古い木道は滑りやすいと思います。何かいい方法とか、滑りづらい製品に変更はしないのでしょうか。
- ・韓国から尾瀬を見に来ました。東京から夜行バスに乗ってきましたが空気も清々しくて、また珍しい草や花も見えてとてもうれしいです。
- ・ビジターセンターのマスコットキャラクターを皆さんから募集してみてもいいでしょうか？子供から大人まで愛される様なキャラクターが尾瀬の素晴らしい自然や環境保護をPRすれば多くの人に関心を持ってもらえるのではと思いました。ちなみに私の住む町にはいたち川という川が流れていてその川からタッチー君というかわいいイタチのキャラクターが生まれた町の色々なPRを頑張ってくれています！
- ・35年ぶりの訪問でしたがあのころより草が多くなった様な気がしました。今回は至仏山から全体を既観することが出来ました。尾瀬が皆に愛されている事をまた実感出来ました。良い思い出がまた一つ出来ました。
- ・ビジターセンターの設置物のレベルの高さとわかりやすさに驚き！カナダのロッキー地方のインフォメーションセンターに近い物がありました。自然を知る、感じる、いいきっかけがありますね。これからもがんばってください。期待しています。

グラフでみる 10 年間

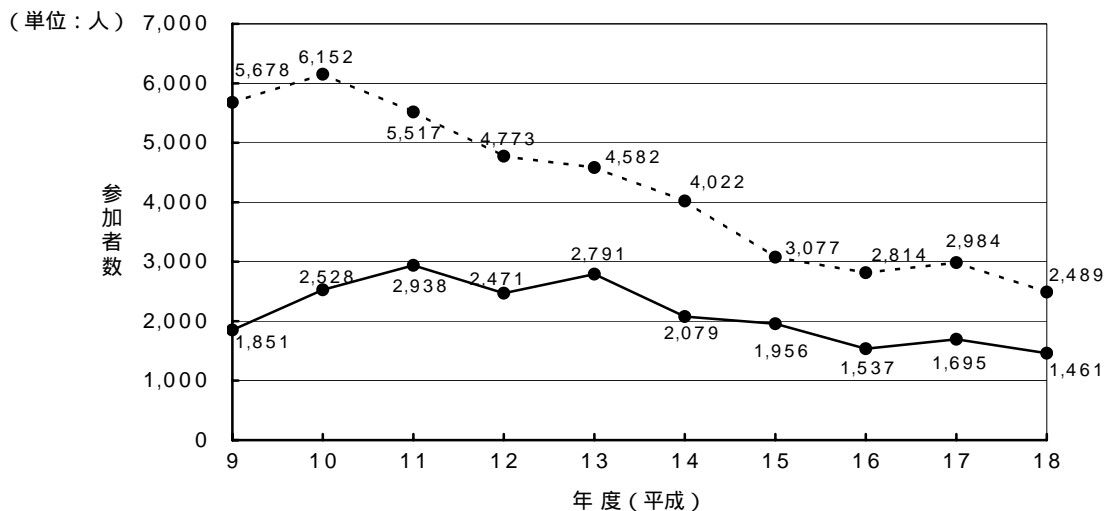
1 ビジターセンター入館者数の推移



2 自然観察会への参加者数の推移

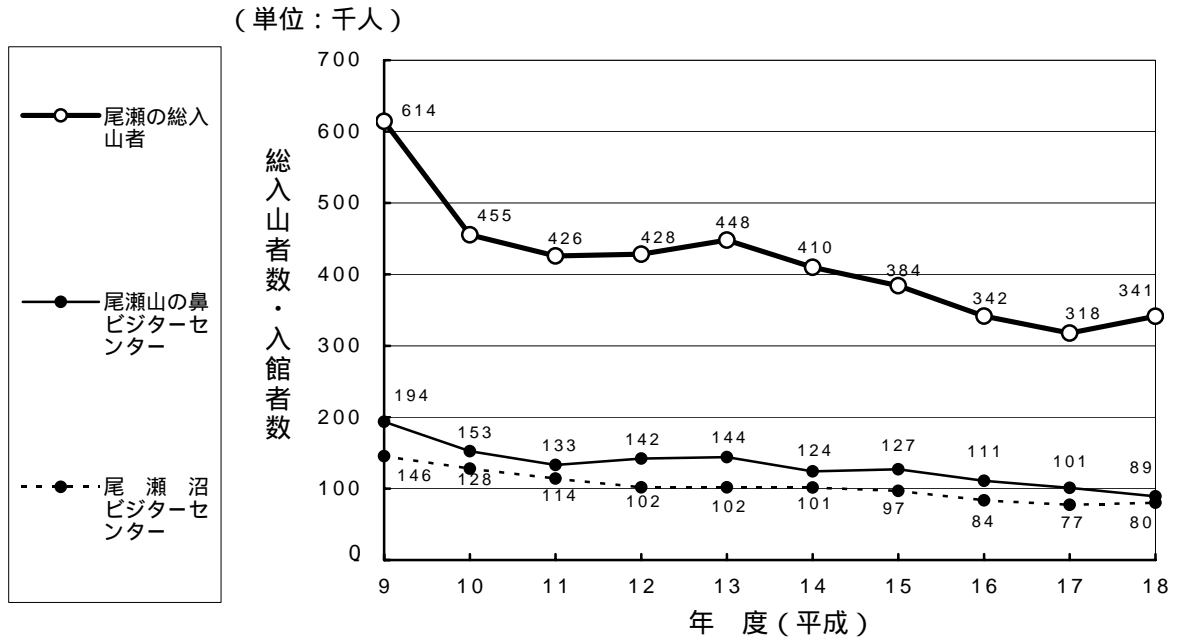


3 スライド上映会(スライドショー)への参加者数の推移

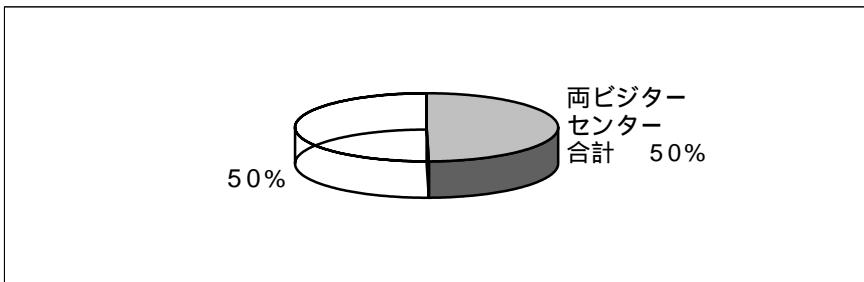


ビジターセンターの利用動向

1 尾瀬の総入山者数とビジターセンター入館者数との比較



2 尾瀬の総入山者に占めるビジターセンター入館者の割合 (平成18年)



3 尾瀬の総入山者に占めるビジターセンター入館者の割合 (平成9年～平成18年)

	平成 9	平成 10	平成 11	平成 12	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18
尾瀬の総入山者数	614,317	455,409	425,807	428,446	448,041	409,942	384,251	341,558	317,847	341,369
両ビジターセンター	55%	62%	58%	57%	55%	55%	58%	57%	56%	50%
(内訳) 尾瀬山の鼻 ビジターセンター	32%	33%	31%	33%	32%	30%	33%	32%	32%	26%
(内訳) 尾瀬沼 ビジターセンター	24%	28%	27%	24%	23%	25%	25%	24%	24%	24%

* 「尾瀬の総入山者数」は環境省発表データを引用しました。

巻末資料3

平成18年度 ビジターセンター傷病者対応事例

尾瀬山の鼻ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

- 病 気 5月31日(水) 9時30分頃 テンマ湿原にて、写真撮影中倒れ、意識不明。防災ヘリで搬送。
- 転倒事故 6月 3日(土) 15時45分頃 テンマ湿原から木道歩行中に怪我。応急処置を施し、自力歩行で鳩待峠へ向かったが、歩行困難となり、担架搬送。
- 転倒事故 6月 7日(水) 8時30分頃 牛首手前で木道を踏み外し、足首を打撲歩行困難のため担架搬送。
- 転倒事故 6月18日(日) 13時50分頃 鳩待峠～山ノ鼻間の中間地点にて、木道で転倒。担架搬送。
- 転倒事故 7月 7日(金) 16時頃 至仏山東面登山道で転倒し、左足首骨折の疑い 歩行困難のため担架搬送。
- 病 気 7月26日(水) 13時30分頃尾瀬ヶ原で歩行中体がふらつき体調不安定となる。防災ヘリで搬送。
- 病 気 7月29日(土)山ノ鼻から1km程鳩待峠より「痙攣」歩行困難のため担架搬送。
- 転倒事故 10月 7日(土) 7時30分頃木道で滑り転倒左足首強打骨折の疑い、歩行困難のため担架搬送。

他6件発生しました。

尾瀬沼ビジターセンター対応事例（担架搬送、ヘリ搬送したものを抜粋）

- 転倒事故 6月10日(土) 昼頃に三平下～三平峠間で雪を踏み抜き、左足太もも骨折の疑い。防災ヘリ要請し搬送
- 転倒事故 9月 2日(土) 5時30分頃 長英新道から燧ヶ岳へ登山中、横木の根っこにひっかかり腰から落ちて強打。小屋まで自力で戻ったが、その後下山できず、防災ヘリを要請し搬送。
- 転倒事故 10月 1日(日) 11時30分頃 三平下へ向かう途中、滑り左足首を捻る。歩行すると激痛が走り、歩行困難と判断。防災ヘリを要請し搬送。

この3件のみです。

巻末資料 4

- 2006年 尾瀬のできごとをふりかえる -

今冬の豪雪で春先の尾瀬は多くの残雪があり、雪消えとともに山の鼻ビジターセンターをはじめ、山小屋や公共施設（橋・木道等）の雪害が確認され補修や安全対策が大変でした。梅雨明けの遅れ等で気温が低く植物の成長の遅れにより、春の花から引き続き夏の花へと移り変わり、探勝者もそれにあわせ入山し全体的に昨年を上まわりました。

夏に入ると山ノ鼻地区には、ツキノワグマが頻繁に出没したため、長期間通行止（研究見本園）にしました。また捕獲学習放獣も2件実施しました。（野生動物との共生の難しさを改めて感じました。）

尾瀬ヶ原周辺のできごと

（尾瀬山の鼻ビジターセンター報告）

5月

- 1 1 職員上山
残雪が多くビジターセンター建物の一階部分はまだ雪に埋もれ状態。
（尾瀬ヶ原：積雪2m）
- 1 4 ビジターセンター開所式
開所記念演奏（群響：フルート奏者）
- 1 7 尾瀬山開き・・・大清水登山口
- 2 9 救急救命講習会実施

6月

- 6 ミズバショウの見ごろ・・・上田代
- 1 1 モリアオガエル産卵（研究見本園）
- 2 4 至仏山登山道保護柵設置
- 2 7 八木沢登山道の風倒木処理
ニッコウキスゲ咲き始める

7月

- 1 至仏山山開き・・・鳩待峠
- 4 クマ専門員VCに常駐
（7/4～9/16）
- 1 0 ヒツジグサ咲き始める
- 1 9 長梅雨で尾瀬ヶ原の木道が冠水し通行止
- 2 1 山ノ鼻地区にツキノワグマが頻繁に出没 研究見本園通行止
（7/2～9/16）
- 2 5 「尾瀬子供サミット」開催
（7/25～7/28）

尾瀬沼周辺のできごと

（尾瀬沼ビジターセンター報告）

5月

- 1 1 職員上山、大清水から入山
尾瀬沼周辺約2mほどの残雪
- 1 3 ビジターセンター開館
最低気温 0.7
- 1 5 カッコウ初鳴き
- 1 6 最低気温 - 4
- 下旬 ミズバショウ見ごろ・・・大江湿原
- 2 7 ミネザクラ咲き始め

6月

- 3 ゴミ持ち帰り運動実施
- 1 0 保護柵設置（大江）
" （沼尻、白砂）
- 1 3 韓国放送の取材を受ける
- 中旬 ミズバショウ見ごろ終了
- 2 3 管理ヤード講習会
- 2 4 田代山山開き
- 2 8 尾瀬ボランティアハウス設置
- 下旬 ニッコウキスゲ咲き始め

7月

- 1 会津駒ヶ岳山開き
- 2 燧ヶ岳山開き
- 1 2 サブレンジャー業務開始
- 2 6 大江湿原のニッコウキスゲ見頃

8月

- 1 研究見本園でハイケボタル見られる
- 1 3 山の鼻キャンプ場閉鎖-ツキノワグマ対策
- 1 5 ツキノワグマ捕獲、学習放獣
(8/15、8/22各一頭)
- 2 4 「尾瀬サミット」開催・・・尾瀬沼ヒュッテ

9月

- 1 2 山ノ鼻地区十二山神祭り開催
- 2 1 植生回復作業実施(横田代)
- 2 2 暖房使用開始(昨年9/29)
- 2 5 尾瀬ヶ原に初霜-12(昨年9/29)
イワツバメ姿見えなくなる

10月

- 2 AED導入により救急救命講習実施
- 8 大雨で尾瀬ヶ原の木道が冠水し通行止・・・下ノ大堀
- 1 0 至仏山登山道保護柵撤去
- 2 8 ビジターセンター閉館
- 3 0 見晴沼尻川橋板撤去
- 3 1 職員全員下山(9名)

11月

- 1 山の鼻公衆トイレ管理
(11/1~11/12)
- 5 竜宮公衆トイレ閉鎖
竜宮沼尻川橋板撤去
- 6 ボランティアハウス閉鎖(鳩待峠)
- 1 2 山の鼻公衆トイレ閉鎖
- 1 3 VC他施設の越冬点検整備
- 1 4 職員下山(3名)
鳩待線道路閉鎖(土木)
シーズン終了

8月

- 1 サブレンジャー業務終了
- 上旬 ニッコウキスゲの見ごろ終了
" ヤナギラン咲き始め
- 2 4 「尾瀬サミット2006開催」
現地で開催
- 2 5 尾瀬サミット会議(尾瀬沼)

9月

- 2-3 尾瀬ボランティア・インタープリテーション研修
- 2 4 初霜
- 2 6 沼尻地区植生復元作業実施
- 2 7 小淵沢田代植生復元作業実中旬
下旬 草紅葉見ごろ

10月

- 9 ありがとう尾瀬清掃実施
- 1 7 最低気温 -1.0
- 1 9 沼尻、白砂地区の保護柵撤去
- 2 0 大江湿原の保護柵撤去
- 2 8 ビジターセンター閉館
- 3 1 職員全員下山(5名)

11月

シーズン終了

コラム 職員の解説活動雑感

～ 魅力的な自然観察会を目指して ～

「オコジョに会えた！！ 感激」

ビジターセンターに勤める私たちでも、野生動物、特にほ乳類と対面する機会はめったになく、いまだにオコジョと出会えない職員もいるくらい。冒頭のうらやましいコメントは、自然観察会の事後アンケートに書かれたもので、たまたま参加して得られた貴重な体験。その驚きと感激が伝わってきます。この偶然が、自然への理解と関心につながれば、自然観察会はまさにねらい通りです。

オコジョとの出会いのような、「その場で、その一瞬に」体験できることを、どう見出すか。参加者全員が五感で感じる瞬間をどう導くか。その体験と感動を、次のステップ - 自然への理解と関心 - にどう結びつけるか。これらは自然観察会の中で私が最も重視し研究してきたことです。

ところが、偶然をてがかりにするのは、容易ではありません。自然の気配を感じとる力とそれを上手に利用し「伝える力」。いずれも経験の積み重ねが必要です。それよりも、「この時期は、この場所で、この話を」というマニュアルの方が便利そうです。

マニュアルは知識・技術を共有するのに大事な道具です。でも、それに頼り切ってしまうたら、画一的でつまらないものになってしまいます。なによりも、体験を通して「伝える力」は、どんな完璧なマニュアルの説明にも勝ります。大切なのは、マニュアルを上手に活用しながら、職員個々が「伝える力」をさらに磨いていくことだと思います。(西嶋)



観察会、スライドショーについては、毎日実施しているわけではありませんので、詳細はお問い合わせください。両ビジターセンターとも今後も充実した自然解説になるよう努力してまいりますので、尾瀬にお越しの際は、是非ご参加ください。

～ 平成18年シーズンの尾瀬トピックス ～

昨シーズンに続き残雪が多く、尾瀬ヶ原に架かる橋、ビジターセンター、山小屋等に被害が発生。迂回路の設定や案内看板の設置等を行った。

地元1市2村や地元関係者、3県選出国會議員らにより「尾瀬国立公園実現期成同盟会」が発足した。(4月20日)

これからの尾瀬のあるべき姿を探るため、環境省からの委託で尾瀬保護財団が「尾瀬の保護と利用のあり方検討会」を設置し、第1回目の検討会が開催された。(4月25日)

「尾瀬国立公園」の実現について、福島、群馬、新潟の3県知事が小池環境大臣等に要望した。(6月26日)

6月下旬、尾瀬沼地区など、福島県側の主要利用地区で古い空き缶や空き瓶など、過去のごみが発見された。

8月上旬、山ノ鼻地区でクマの出没が相次いだため、尾瀬保護財団の研究者とビジターセンター職員が中心となって巡視や追い払い等を実施するとともに、状況に応じて研究見本園の立入を禁止した。さらに下旬には、関係者の協力を得て2頭のツキノワグマを捕獲し、学習放獣を実施した。

尾瀬沼畔で尾瀬サミット2006が開催され、来賓として参加した環境省の南川自然環境局長から「尾瀬国立公園」が平成19年度末にも実現する見通しである旨の発言があった。また、尾瀬内で見つかった過去のごみへの対応について、「ごみのない尾瀬を実現する宣言」が採択された。(8月24～25日)

9月、山ノ鼻地区で見つかった過去のごみについて、地表部分について関係者で清掃活動を実施するとともに、10月にはボランティアや一般入山者の協力を得て埋設ごみの撤去作業が行われた。

大雨による増水で尾瀬ヶ原の一部が冠水し、牛首～ヨッピー吊り橋間が一時通行止めとなった。また、見晴地区では風雨による倒木事故が発生した。(10月8日)

「尾瀬の保護と利用のあり方検討会」が、今後の尾瀬の進むべき指針となる「尾瀬ビジョン」を取りまとめ環境省に報告した。
(11月30日)

尾瀬の入山者が34万1千人となり、6年ぶりに前年を上回ったが、1日あたりの入山者が1万人を超えた日はなく、週末の利用割合も低下するなど、利用分散化の傾向が窺える結果となった。

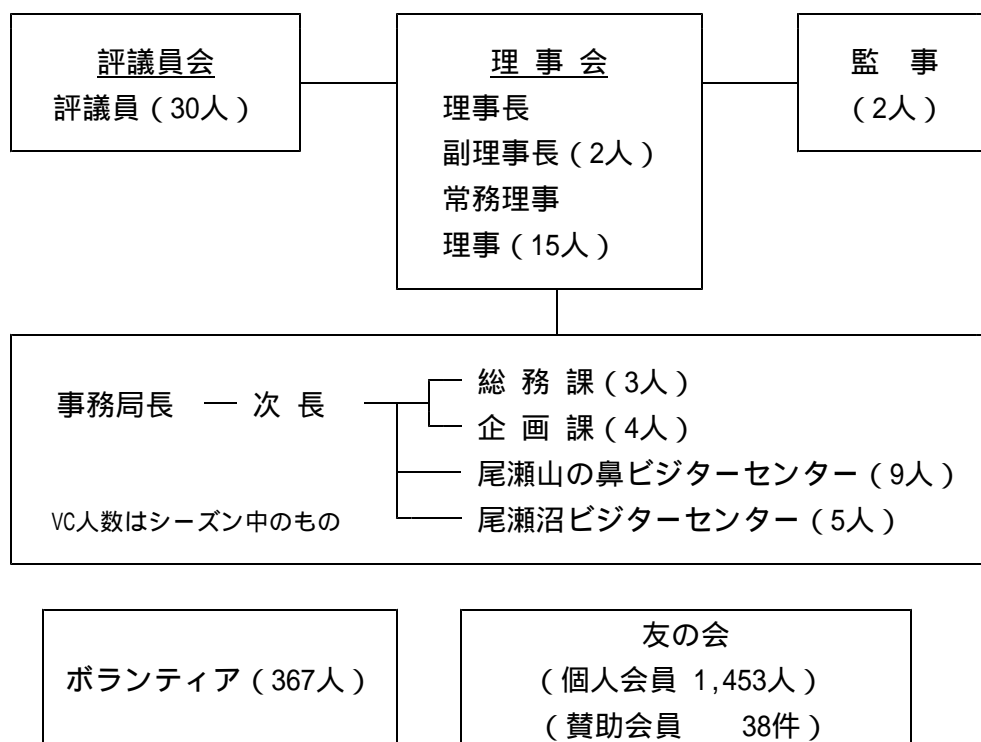
尾瀬保護財団の沿革と概要

財団の沿革

- 平成 4年 8月 4日 福島・群馬・新潟三県知事による「尾瀬サミット」(尾瀬沼山荘)
- 平成 7年 6月13日 財団設立発起人会(東京都内)
- 8月 3日 財団設立、第1回理事会(尾瀬沼ヒュッテ)
群馬県大友庁舎(前橋市大友町)に事務所設置
- 平成 8年 5月15日 尾瀬沼ビジターセンターの運営開始(環境庁から受託)
- 5月18日 尾瀬山の鼻ビジターセンターの運営開始(群馬県から受託)
- 平成 9年 4月 1日 群馬県公社総合ビル(前橋市大渡町)に事務所移転
- 平成11年 7月13日 特定公益増進法人に認定(財団への寄附につき税制上の優遇措置が受けられる制度)
- 9月 3日 群馬県庁(前橋市大手町)に事務所移転

財団の概要

- ・ 設立日 平成 7年 8月 3日
- ・ 基本財産 約15億円(平成17年度末現在)
- ・ 主な事業 入山者啓発、自然解説、植生復元、施設管理、調査研究、顕彰事業など
- ・ 組織体制



人数は平成19年1月末現在

施設概要

- ・ 尾瀬山の鼻ビジターセンター 設置者：群馬県
鉄骨木造 2階建 延床面積344㎡ 平成5年築
展示室 69㎡ レクチャールーム 80㎡ 事務室 17㎡
- ・ 尾瀬沼ビジターセンター 設置者：環境省
鉄骨木造 2階建 延床面積493㎡ 昭和60年築
展示室 132㎡ レクチャールーム 99㎡ 事務・会議室 32㎡

この冊子について

この冊子は、財団法人尾瀬保護財団が受託運営する尾瀬山の鼻と尾瀬沼の両ビジターセンターの平成18年度実績報告をまとめたものです。活動の概要を関係者へ報告するとともに、今後の運営資料として活用するために作成しています。

集計方法について

ビジターセンター入館者数 公衆トイレ利用者数

- ・施設に設置されているセンサーで自動計測した結果をそのまま集計しています。停電等により計測に不具合があった場合は、適宜補正しました。また自動計測のため、例えば行列や感知器の前に障害物がある場合には実際との誤差が発生しますが、これについては特に補正していません。公衆トイレについては山の鼻のみセンサーが設置されています。

アルバイト(サブレンジャー)雇用人数

- ・勤務地ごとの賃金支払実績から活動日数を計算しています。

自然観察会

- ・平日の野外活動として実施した「平日朝の自然観察会」の実績を含んでいます。

その他

- ・比率(%)で示した数値は、すべて小数点以下第2位を四捨五入しています。
- ・本文中に「VC」とある場合は、「ビジターセンター」と読み替えてください。

平成18年度

尾瀬山の鼻 尾瀬沼 ビジターセンター運営記録

平成19年 3月

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

財団法人 尾瀬保護財団

TEL (027)220-4431

FAX (027)220-4421

ホームページアドレス <http://www.oze-fnd.or.jp/>

E-mail アドレス info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターの 自然体験プログラム

お問い合わせは

財団法人 尾瀬保護財団

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1 群馬県庁19階
TEL 027-220-4431
FAX 027-220-4421
E-mail info@oze-fnd.or.jp

ビジターセンターでは利用者に尾瀬の自然の大切さを知ってもらい、マナーを守りながら利用していただくためのさまざまなイベントを催しています。

ビジターセンターは山ノ鼻（尾瀬ヶ原の入口）と、尾瀬沼の東畔にあります（表紙裏の地図参照）。散策前に是非立ち寄ってみてください。

天候等により実施しない日もありますので、事前に財団へお問い合わせください。

いつでも

窓口

スタッフが尾瀬のことにお答えします。

窓口時間 山の鼻 VC 8:30～16:30(平日)
7:30～17:00(土日祝)
尾瀬沼 VC 7:00～16:30(全日)

いつでも

展示

尾瀬のことがわかりやすくまとまっています。

開館時間 山の鼻 VC 7:00～19:00(全日)
尾瀬沼 VC 7:00～16:30(全日)

いつでも

自然情報

花の見頃や登山道の様子が毎週更新されています。
Check! Check! Check!

自然情報は尾瀬保護財団ホームページでも掲示しています。
URL <http://www.oze-fnd.or.jp/>

いつでも

ビデオ上映

尾瀬のビデオが上映されています。
急な申込みでも大丈夫!

山の鼻ビジターセンターで上映
Hi-Vision「驚異の食虫植物モウセンゴケ」(20分)
Hi-Vision「トンボ」(18分)
Hi-Vision「クモ」(18分)
「尾瀬その成り立ちとしくみ」(16分)
「尾瀬はふるさと - 空を渡る生き物たち - 」(10分)

尾瀬沼ビジターセンターで上映
マルチスライド「尾瀬沼の四季」(12分)

*ほかにさまざまなビデオがあります。お問い合わせ下さい。

いつでも

セルフガイド

一人でも自然観察ができるガイドマップが揃っています。

「鳩待峠～尾瀬ヶ原」「研究見本園」「大清水～尾瀬沼」
「アヤマ平」「燧裏林道」「尾瀬沼」などがあります。

日時限定

スライドショー

スライドのはなしを聞きながら尾瀬の不思議を知る

「今日のショーはあるの?」と利用者から尋ねられる程の定番企画です。まずは参加してみてください。
朝 7:00～7:40
夜 19:00～19:40
開催時期についてはお問い合わせください。

日時限定

自然観察会

一緒に湿原へ出てみましょう!

周辺の湿原で動植物の観察をしながら散策をします。
朝: 7:00～7:40
午後: 山の鼻 14:00～14:40 尾瀬沼 16:00～16:40
開催時期についてはお問い合わせください。

要予約

団体レクチャー

グループで尾瀬を学びたいので、案内して欲しい

事前に申込みのあった団体には、観察会やスライドショーなどのプログラムを実施しています(要予約)。

期間限定

企画展示

尾瀬を深く知るための特別展示です。

開催時期・内容についてはお問い合わせください。

日時限定

お話しボランティア

平日の休憩ベンチには個性豊かな
解説ボランティアさんがいます
開催時期・内容についてはお問い合わせください。

日時限定

尾瀬自然解説ガイド

実施日を限定して、自然解説ガイドが短時間の
ガイドをします(コース限定、有料、要予約)。
開催日についてはお問い合わせください。

この他、ビジターセンターに関する色々な情報は、各ビジターセンターのホームページをご覧ください。

尾瀬山の鼻ビジターセンター
尾瀬沼ビジターセンター

<http://www.oze-fnd.or.jp/yamanohanavckara/>
<http://www.oze-fnd.or.jp/numavckara/>